

平成28年度 消防本部 方針書

消防長 大石 義孝

1. 消防本部の使命（役割）

災害現場の最前線で活動する組織として、その誇りと責任を持ち、市民の負託に応える。

2. 平成28年度における課題（前年度の振り返りから）

1. 消防力の向上（若年職員の育成）
2. 分署庁舎の整備
3. 消防団組織の改革
4. 住宅火災減少に向けた新たな取り組み

3. 平成28年度の『スローガン』

～For The All～
持てる力を結集し、チームワークで市民を護る

4. 年度目標となる方針（目標）

1. 消防力の向上と、安全・確実・迅速な業務遂行
2. 職場環境の整備と計画的な人材育成の強化
3. 災害に強いまちづくりを目指す

5. 重点取組項目

(1)	項目	消防力の向上と、安全・確実・迅速な業務遂行
	取組内容	1. 確実な災害対応のための実践的訓練及び指揮隊の明確化 2. 現場活動における消防団との連携強化 3. 確実・迅速な現場対応のための、通信指令業務の充実強化
(2)	項目	職場環境の整備と計画的な人材育成の強化
	取組内容	1. 確実な分署統合事業の推進 2. 若年者教育指導制度及び機関運転講習の実施 3. 指導的立場の救急救命士による救急救命士・救急隊員の能力向上に向けた再教育
(3)	項目	災害に強いまちづくりを目指す
	取組内容	1. 消防団の充実強化に向けた取り組み 2. バイスタンダー（身近の救護者）の育成と底辺の拡大 3. 住宅用火災警報器等の普及促進を図り、住宅防火対策を推進 4. 防火対象物等の自主防災意識の高揚

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況 【現状】

1. 消防大学校警防科に職員を派遣し、指揮隊運用の習熟度を高めるとともに職員への研修会を行い、全体の指揮隊に関する意識及び能力向上を図った。
2. 南分署（仮称）の建設に向け、基本設計業務委託をはじめ各種業務委託契約を実施した。
3. 消防団組織検討委員会の結果を踏まえ、第一次消防団組織改革計画（素案）の策定及び消防操法指導強化を図り、山内消防団小型ポンプ操法が全県優勝を果たした。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針 【ギャップと対策】

1. 指揮隊運用訓練の開催及び消防団との連携に向けた検討。
2. 西分署（仮称）の候補地決定に向けた検討。
3. 第一次消防団組織改革計画をモデル計画とし、第二次以降の推進を図る。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題 【結果と成果】

1. 昨年度の大量退職後、消防力の向上は当面の重要課題と考え、昨年から継続し訓練を強化してきた。その結果としては、災害事案すべてにおいて事故なく完結しており、若手職員の成長と、指揮隊の有効性が成果として表れた。今後は訓練内容を基本編から応用編にシフトアップし、特に若手職員のレベルアップを図る。
2. 仮称南分署の統合事業は地質調査、基本設計等すべて順調に完了し、当初の計画どおり次年度着工、次々年度完成の目途がついた。また、来年度着手予定の仮称西分署統合事業についても、建設予定地が決定した。次年度は仮称南分署の完成に向け、関係機関と連携し進める。
3. 第一次消防団改革計画を策定し、平成29年度、30年度で整備する目途がついた。今後各消防団から提案される計画についても、団員の意向を考慮しながらも将来の体制を見据えしっかり検討する。また、次年度からの費用弁償の一部引き上げを進め、団員のモチベーション向上を図った。今後とも組織改革と並行し、処遇改善、装備の充実を実現するため、中長期計画を作成し、関係部局と協議を進める。